

# ～シカ対策継続に向けた被害・対策状況の見える化～

(取組主体名) 稲井地区ニホンジカ対策協議会

(所在地) 宮城県石巻市稲井

## ■ 組織のプロフィール

稲井地区は牡鹿半島の付け根に位置し、19の集落からなり、住民の大部分が農業を営んでいる。

約10年前から、この地域でニホンジカが頻繁に見かけられるようになり、農作物の食害や車両衝突事故が多発する状況であった。

そこで、「農林業被害対策」「車両衝突事故対策」「健康被害(山ヒル、マダニ)対策」の3対策を目的として、平成29年に当協議会が設立された。



## 1. 取組のきっかけ

- 協議会設立以来、地元大学と連携したニホンジカの実態調査や調査画像を用いた地域住民向け講演会の開催、地域住民の共同作業による約20kmに及ぶ防鹿柵の設置及び見回り、使用済み漁網の活用による低コスト化、大型囲いわな設置による効果的な捕獲の検討等、先進的な取組を行っている。
- 地域ではもともと、刈り払いなどの共同作業を行う体制があり、シカ対策も集落で協力し取り組まれている。しかし共同作業が多いことや、防鹿柵を設置してもどこからか侵入されている等、住民にはシカ疲れが出てきている。また、住民を取りまとめる区長の負担が大きいことも課題である。
- こうしたことから、被害対策を継続していくための体制作りを主な課題として、令和2年度、県の集落ぐるみの鳥獣被害対策モデル事業のモデル地区指定を受けて課題解決に取り組むこととした。

## 2. 取組の内容と特徴

(取組内容) 講師：合同会社東北野生動物保護管理センター

- 集落点検(第1回目勉強会)：既に設置されているネット柵沿いに歩き、事前にルート沿いに設置していたカメラの状況や、柵の修繕ポイント等について確認した。点検後、実際にカメラの映像を確認し、耕作放棄地のような広い草地には頻繁にシカが出没していることが分かった。
- 被害・対策状況の共有(第2回目勉強会)：地区内の別の集落に設置したカメラの映像も確認した。設置箇所のほとんどで複数頭のシカが映っていた。ネット柵を軽く飛び越える映像や下からくぐり抜ける映像は特に反響が大きく、柵設置の注意点について理解がより深まった。  
また、ワークショップで集落ごとの被害状況や柵の設置状況について、地図へ落とし込みをし、被害・対策状況の見える化を行った。



集落点検(第1回勉強会)



カメラ映像の確認(第2回勉強会)

- 振り返り・取りまとめ（第3回目勉強会）：第2回目勉強会で作成した被害対策マップから、集落内の重点点検ポイントを選定。区長に配布し、今後の対策検討に活用してもらうこととした。

また、点検時の確認事項等についても改めてまとめ、効率的な見回りや対策の区長引継ぎに活用できるようにした。被害・対策状況が見える化され、誰でも分かりやすいものとなっている。

加えて、地区に設置されている大型囲いわなの活用に向け、センサー扉を遠隔操作で落とす様子の確認や餌を使った誘引捕獲の方法についても学習した。



民家付近に6頭の群れで出没



### 柵設置・メンテナンスのポイント

#### 大切なこと

- ・ 効果を維持するためには設置後のこまめな点検や補修が必須。
- ・ 対策を続けることが最重要。労力をかけすぎない。

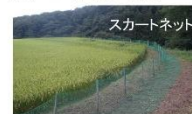
#### 【点検ポイント】

- ネットが噛み切られていないか
- 地面との間に隙間がないか
- 上部が弛んでいないか



#### 【シカの侵入が増えてきたら】

- ネットの下から潜り込んで侵入
  - ⇒ ネットの下部を竹や木材等で固定
  - ⇒ ネットの下部に50cmほどの“スカート”を付け足す
- ネットを噛み切って侵入
  - ⇒ 穴の補修（小さな穴には結束バンドが便利）
  - ⇒ シカの口が入らない目合いが細かい網（5cm以下）に交換
- ネットの上を飛び越えて侵入
  - ⇒ 斜面から離して再設置
  - ⇒ 柵を高くする（2mあれば大丈夫）



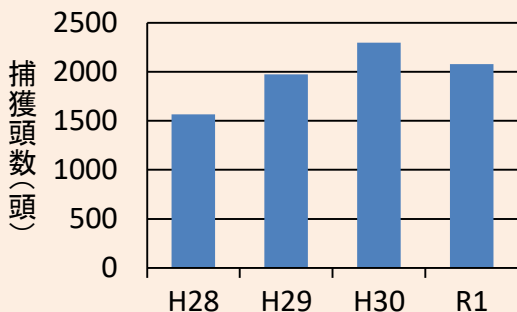
#### 【柵設置の基本】

- 点検しやすい（歩きやすい）ルートを選んで設置
  - 河川や堀の横断はできるだけ避ける
- 飛び越えを防ぐため、斜面からは離して設置
- 柵の高さは2m
  - ネットは50cm余分に長くし、地面に垂らす（スカートネット）
- ネットの目合いは5cm以下なら噛み切れにくい

被害対策マップと柵設置等のポイント

## 3. 被害及び捕獲推移

- 石巻市におけるニホンシカによる農作物被害額は報告のあったものだけで年間1,000万円以上（H28～R1年度平均）となっている。
- 石巻管内のニホンシカ生息数は約7,000頭と推定されている。毎年約2,000頭が捕獲されているが、狩猟者の高齢化等により今後捕獲頭数の減少が見込まれている。稲井地区では年間100頭以上のシカが網に引っかかり処分されている。



石巻市における捕獲頭数の推移

## 4. 課題と今後の展望

- 今回の事業で作成した被害対策マップは現時点のものであり、今後状況の変化によって重点点検ポイントも変わってくる。地図への落とし込み等の更新作業を地域で継続する必要がある。
- 集落内に設置したセンサーカメラにはイノシシも映っていた。現在設置されているネット柵ではイノシシの侵入を防ぐことは難しいため、数年後を見据えた早急なイノシシ対策（金属柵の設置）も地域の課題である。